ポテカッター消毒液

安全データシート

JIS Z 7253 ： 2019に準拠

作成日： 2023/09/20　　バージョン：1.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　：　ポテカッター消毒液

製品コード　：　EZAB1001000

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途　：　カッティングプランターによる種子ばれいしょ切断刀消毒用

使用上の制限　：　本用途以外での使用を禁ずる。

会社情報

株式会社エス・ディー・エス バイオテック
101-0022
東京都千代田区神田練塀町３番地
TEL:03-6867-8313

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性	皮膚腐食性／刺激性	区分１
	眼に対する重篤な損傷性・刺激性	区分１
	皮膚感作性	区分１
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分１（腎臓）

絵表示
（GHS JP）

注意喚起語（GHS JP）　：　危険

危険有害性（GHS JP）　：　重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷（H314）
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（H317）
臓器の障害（腎臓）（H370）

注意書き（GHS JP）

安全対策　：　粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。（P260）
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。（P264）
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。（P270）
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。（P272）
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。（P280）

応急措置　：　飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
（P301+P330+P331）
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を水で洗うこと。（P303+P361+P353）
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。（P304+P340）
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
（P305+P351+P338）
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。（P308+P311）
直ちに医師に連絡すること。（P310）
特別な処置が必要である(このラベルの注意書きを見よ)。（P321）
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。（P333+P313）

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 (P363)

保管 : 施錠して保管すること。 (P405)

廃棄 : 内容物、容器を国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学物質名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
水（Ｈ２Ｏ）	75 - 85	H20	-	-	7732-18-5
マレイン酸	15 - 25	C4H404	(2)-1100	既存化学物質	110-16-7
青色色素	0.0036 - 0.0054	-	(5)-1732	既存化学物質	3844-45-9

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般 : 直ちに医師の診察を受ける。

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合 : 皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
直ちに医師の診察を受ける。

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
無理に吐かせてはいけない。
直ちに医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状・損傷 皮膚に付着した場合 : 火傷。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

症状・損傷 眼に入った場合 : 眼に重度の損傷を与える。

症状・損傷 飲み込んだ場合 : 火傷。

医師に対する特別な注意事項

医師に対する特別な注意事項 : 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤 : データなし

火災時の危険有害性分解生成物 : 燃焼ガスには、一酸化炭素が含まれる。

消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

非緊急対応者

応急処置 ： 漏出エリアを換気する。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。

緊急対応者

保護具 ： 適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第８項の「ばく露制御/個人保護」を参照。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 ： 環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法 ： 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。

その他の情報 ： 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 ： データなし

安全取扱注意事項 ： 作業所の十分な換気を確保する。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
皮膚、眼との接触を避ける。
個人用保護具を着用する。

接触回避 ： データなし

衛生対策 ： 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

安全な保管条件 ： 施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。
涼しいところに置くこと。

安全な容器包装材料 ： データなし

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 ： 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用保護具 ： 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

手の保護具 ： 保護用手袋

眼及び／又は顔面の保護具 ： 安全メガネ

皮膚及び身体の保護具 ： 適切な保護衣を着用する。

個人用保護具シンボル

環境へのばく露の制限と監視 ： 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
外観	:	透明液体
色	:	青
臭い	:	データなし
pH	:	0.6 - 0.8
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火点	:	データなし
可燃性	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び／又は相対密度	:	データなし
相対ガス密度	:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃範囲	:	データなし
動粘性率	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しない。
化学的安定性	:	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	:	通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	:	推奨の保存条件及び取扱条件の下では、避けるべき条件はない（第７節参照）。
混触危険物質	:	データなし
危険有害な分解生成物	:	通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	:	データなし
急性毒性（経皮）	:	データなし
急性毒性（吸入）	:	データなし

水（Ｈ２Ｏ）（7732-18-5）	
LD50 経口 ラット	> 90 ml/kg (Source: FOOD_JOURN)

マレイン酸（110-16-7）	
急性毒性（経口）	ラット LD50 = 708 mg/kg（PATTY（5th, 2001））により区分４とした。
急性毒性（経皮）	ウサギ LD50 = 1560 mg/kg（PATTY（5th, 2001）により区分４とした。
急性毒性（吸入:気体）	GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入:蒸気）	データなし。
急性毒性（吸入:粉じん、ミスト）	ラット LC50 > 0.72 g/m3/1h（換算値：0.18 mg/L/4h）（PATTY（5th, 2001））の他にデータなく分類できない。
LD50 経口	708 mg/kg
LD50 経皮	1560 mg/kg

皮膚腐食性／刺激性　:　重篤な皮膚の薬傷

ポテカッター消毒液	
pH	0.6 - 0.8

マレイン酸（110-16-7）	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた試験で皮膚に軽度の刺激性（PATTY（5th, 2001））、モルモットを用いた24時間の適用試験で中等度の刺激性と評価され（PATTY（5th, 2001））、ヒトで著しい刺激を示すとの記載（PATTY（5th, 2001））より区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：　重篤な眼の損傷

ポテカッター消毒液	
pH	0.6 - 0.8

マレイン酸（110-16-7）	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギ眼に1%あるいは5%溶液を2分間適用した場合は中等度から重度の刺激性と評価され（PATTY（5th, 2001））、ヒトで著しい刺激性を示すとの記載（PATTY（5th, 2001））より区分1とした。

呼吸器感作性　：　データなし

皮膚感作性　：　アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

マレイン酸（110-16-7）	
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性	【分類根拠】（１）より、EC3値が2%以下と推定されることから、区分1Aとした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。REACH登録情報（Accessed Nov. 2021）にて感作性知見が公表されたため、旧分類から皮膚感作性項目のみ見直した（2021年）。【根拠データ】（１）マウス（n = 5）を用いた局所リンパ節試験（LLNA）（OECD TG 429、GLP）において、刺激指数（SI値）は11.2（1%）、22.0（2.5%）、31.5（5%）であったとの報告がある（REACH登録情報（Accessed Nov. 2021））。【参考データ等】（２）モルモット（n = 10）を用いたMaximisation試験（OECD TG 406、GLP、皮内投与：1%溶液）において、25%溶液で惹起した1回目における、惹起後24時間後及び48時間後の陽性率はともに100%(10/10例）であった。対照群でも全例で陽性反応がみられたことから、刺激性反応であると判断され、1%溶液で再惹起が実施された。再惹起における、惹起後24時間後及び48時間後の陽性率はともに30%（3/10例）であったとの報告がある（REACH登録情報（Accessed Nov. 2021））。

生殖細胞変異原性　：　データなし

マレイン酸（110-16-7）	
生殖細胞変異原性	in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitroではエームス試験の結果は概ね陰性であった（NTP DB（Access on Aug. 2008）、IUCLID（2000））。

発がん性　：　データなし

マレイン酸（110-16-7）	
発がん性	ラットに2年間混餌投与した試験では催腫瘍性は報告されていない（PATTY（5th, 2001））が、この結果のみでは分類できない。

生殖毒性　：　データなし

マレイン酸（110-16-7）	
生殖毒性	ラットに無水マレイン酸を経口投与した二世代生殖毒性試験と妊娠ラットを用いた試験の結果から、マレイン酸の生殖・発生毒性が陰性であると推測されている（SIDS（J）（Access on Oct. 2008））。しかし、対象物質であるマレイン酸を直接用いた試験データではなく、また、無水マレイン酸を用いた試験の陰性結果についても内容の詳しい記述がない。したがって判断できないので分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)　：　臓器の障害（腎臓）

マレイン酸（110-16-7）	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラット（雄）に 200 または 400mg/kg を経口投与直後から腎臓の傷害（近位尿細管の傷害と壊死）が現れ、24 時間までに広範な壊死に進行した（PATTY（5th,2001））。また、近位尿細管の壊死は、イヌに 9 mg/kg 以上を経口投与した場合にも観察されている（HSDB（2003））。ラットおよびイヌともガイダンス値範囲区分 1 に相当する用量で腎毒性を示したことから、区分 1（腎臓）とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)　：　データなし

マレイン酸（110-16-7）	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットを用いた混餌投与試験に関して、28 日間ばく露では高用量群（162.5mg/kg/day、換算値：50.5mg/kg）での体重増加抑制と全用量群での副腎重量の変化を除きばく露の影響についての記載はない（PATTY（5th, 2001））。また、2 年間ばく露では中および高用量での体重増加抑制と全用量での死亡率の増加があったものの、催腫瘍性、対照群との毒性学的な差および特異的な病理所見は報告されていない（PATTY（5th, 2001））。一方、ラットに無水マレイン酸 100mg/kg/日以上を 90 日間ばく露により腎臓の損傷を引き起こし、体内での加水分解によるマレイン酸の影響が述べられている（SIDS（J）（Access on 10. 2008））が、当該物質（マレイン酸）を直接用いた 28 日および 2 年の反復ばく露試験で認められていないので分類に採用しなかった。しかし、単回ばく露の結果を踏まえると発現用量についてなお疑義が残る。ばく露の方法の違い（強制と混餌）もあり、分類にはその点を明らかにしたデータが必要であり、したがって現状では分類できない。

誤えん有害性　：　データなし

マレイン酸（110-16-7）	
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般　：　中和していない場合、水生生物に有害であることがある。
水生環境有害性　短期（急性）　：　データなし
水生環境有害性　長期（慢性）　：　データなし

マレイン酸（110-16-7）	
水生環境有害性　短期（急性）	魚類（マス、ブルーギル）での 96h-LC50＝75mg/L（SIDS, 2004）であることから、区分 3 とした。
水生環境有害性　長期（慢性）	急性分類は区分 3 であるが、急速分解性があり（28 日での BOD 分解度＝87%（既存化学物質安全性点検データ, 1994））、生物濃縮性が低いと推測されることから（LogPow=-2.61（SIDS, 2004））、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	75 mg/L

残留性・分解性

ポテカッター消毒液	
残留性・分解性	データなし

水（Ｈ２Ｏ）（7732-18-5）
急速分解性でない

青色色素（3844-45-9）
急速分解性でない

生体蓄積性

ポテカッター消毒液	
生体蓄積性	データなし

土壌中の移動性

ポテカッター消毒液	
土壌中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性　：　データなし
その他の有害な影響　：　追加情報なし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法　：　許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物・容器を廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

道路輸送 (UN RTDG)	海上輸送 (IMDG)	航空輸送 (IATA)
国連番号		
3265	3265	3265
国連正式品名		
その他の腐食性物質（有機物）（液体）（酸性のもの）	CORROSIVE LIQUID, ACIDIC, ORGANIC, N.O.S.	Corrosive liquid, acidic, organic, n.o.s.
輸送危険物分類		
8	8	8
容器等級		
III	III	III
環境有害性		
環境有害性 ： 非該当	環境有害性 ： 非該当	環境有害性 ： 非該当

海洋汚染物質　：　非該当

国内規制

その他の情報　：　補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法　：　非該当

労働安全衛生法　：　【改正後 令和７年４月１日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第１号、第２号別表第９）
マレイン酸
【改正後 令和７年４月１日以降】
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２、施行令第１８条の２第１号、第２号別表第９）
マレイン酸

毒物及び劇物取締法	:	非該当
消防法	:	非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	:	非該当
農薬取締法	:	非該当
飼料安全法	:	非該当
肥料取締法	:	非該当

16. その他の情報

免責条項　当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。